

広報

みなみいづ

2013

4

No.514



夜桜☆流れ星

3月3日～7日 青野川

夜空に瞬く星に見立てた特殊LEDライト
「いのり星」を放流しました



3月定例町議会

施政方針

現在、わが国を取り巻く環境は少子高齢化と人口減少の進行及び産業構造の変化並びに地球規模での環境問題、高度情報化の進展及び経済等のグローバル化など、地球的な規模で、不安定要素を包含しつつ、急激な変化を遂げています。

このような中、昨年12月26日に成立した第二次安倍内閣においては、大胆な金融政策、機動的な財政政策及び民間投資を喚起する成長戦略の「三本の矢」で、円高・デフレ不況から脱却し、雇用や所得拡大を目指すとされており、円安や日経平均株価の上昇など、その兆しが見えつつありますが、自治体経営は以前にも増して難しい時代に入り、一層の自助努力や新たな行政システムの構築が必要となっています。

本町の歴史を顧みますと、昭和30年7月の旧村合併で誕生以来、半世紀以上が経過しましたが、幾多の風水害、地震等の苦難も、先人のたゆまぬ努力と英知により乗り越え、今日の南伊豆町が形成されているものと認識しております。

この間、本町も、少子化に伴う人口減少と高齢化社会へと変化し、インターネット等を媒介とした高度情報化などが急速に進展し、こ

れらに伴い住民ニーズも複雑・高度化し、加えて、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災は、災害に対する価値観を一変させたと言われるほど我々の記憶に鮮明に焼き付いており、早急な防災・減災対策が求められています。

このような行政課題に対応するために、絶えず情報収集のアンテナを高く保ち、住民ニーズの把握に努めるなど、開かれた町政の推進はもちろんのこと、住民の負託に応える職員の資質向上や気概の醸成にも努めてまいりました。

また、町政の基盤をなす財源確保につきましては、本町は依存財源比率が高く、国等の動向に左右されやすい状況にありますが、いかなる事態にも対応できるよう財政調整基金等の充実により、足腰の強いまちづくりを進め、住民の安全・安心を担保する町政運営に努めることが肝要であると考えております。

このような考え方の下で業務に取り組んだ結果、長年の課題でありました公共施設の耐震化や共立湊病院の移転、さらには岩崎産業株式会社との訴訟問題など、議会や町民の皆様のご理解とご協力により、区切りが付きつつありますが、行政課題は山積し、より複雑・高度

平成25年南伊豆町議会3月定例会が3月1日から18日まで開催され、「南伊豆町営住宅管理条例の一部を改正する条例制定について」など原案どおり可決されました。

また、一般会計当初予算額の総額は46億2,500万円としました。

化しております。

このような中、私は、町政運営の信条であります「入るを量りて、出るを為す」の故事どおり、堅実な財政運営により、引き続き、安全・安心のまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

本町におきましては、平成22年3月に策定しました第5次南伊豆町総合計画に基づき、町の将来像であります「次世代につなぐ 光と水と緑に輝く南伊豆町～ひとにやさしく 自然にやさしく 未来につなぐまちづくり」を推進していくため、職員一丸となって取り組んでいるところであります。

特に、平成25年度は、東日本大震災の教訓や静岡県の第4次地震被害想定等と整合性を図りながら地域防災計画を見直し、町民の皆様の生命と生活を守る防災・減災対策を最優先とともに、経済対策及び鳥獣害対策を重点施策として、安全・安心のまちづくりに邁進する考えであります。

また、この重点施策以外にも課題が山積しておりますが、引き続き、健康・福祉、社会資本の整備及び長寿命化などにも取り組み、町の活性化に努めてまいる考えでありますので、皆様のご理解とご協力を願いいたします。

予算編成方針

昨年12月26日に成立した第二次安倍内閣におきましては、本年に入り「日本経済再生に向けた緊急経済対策」や平成24年度補正予算案、政権交代により遅れていた平成25年度予算編成の基本方針及び平成25年度政府予算案を閣議決定したところです。

大胆な金融政策、機動的な財政政策及び民間投資を喚起する成長戦略で、円高・デフレ不況から脱却し、雇用や所得拡大を目指すとの方針の下で編成された、東日本大震災復興特別会計4兆円余を除く国の平成25年度一般会計予算案の規模は、92兆6,116億円で、平成24年度補正予算案13兆1,000億円と合わせた15カ月予算規模は、100兆円を超えることとなりました。

また、静岡県の平成25年度予算案においては、「富国有徳の理想郷の総仕上げを掲げ、総合計画の基本計画推進を重点化した」と発表しております。

同予算案は、地震・津波対策、雇用・経済対策の機動的な実施、少子化対策の充実など6分野について、重点的に施策・事業を展開することとし、投資的経費が1,780億円、3.8%増で、2年連続増となるなど、平成25年度一般会計の予算規模は1兆1,391億円で、前年度当初比0.8%の増となっております。

このような状勢下、本町の財政状況は、主要産業である観光業等の不振が続き、税収の大幅な伸びが期待できません。

加えて、歳入の7割近くを依存財源で占める本町は、補助金などの制度改革等の影響を受けやすい体质となっております。

来年度は、防災・減災対策をはじめ、経済対策及び鳥獣害対策を重点施策とともに、引き続き、健康・福祉、社会資本の整備及び長寿命化、さらに岩崎産業株式会社との訴訟問題を解決し、石廊崎再生元年とすることなど、山積する課題にも取り組んでまいりますが、本町の財政状況は、依然として厳しいことに変わりありません。

このため、事業量や町債発行及び償還の平準化を図りつつも、これまで以上に、国・県の動向に十分留意し、情報収集に努めるとともに、将来を見据えた財政運営が求められます。

歳入では、町税が微増するほか、一部の交付金の減少が予想されますが、地方交付税の総額は、前年度同額を確保できるものと見込んでおります。

しかし、繰出金や財源不足を補うため、財政調整基金から3億8,580万円の繰入れを行うとともに、町債の総額は4億200万円に上っております。

このような中で、自主財源である町税の確保は最重要課題であり、各種料金等も含めて、職員が一丸となり、より一層の徴収強化に努めてまいる考えであります。

一方、歳出では、年々増加の一

途をたどる社会保障費や歳出に占める割合が高い公債費並びに人件費等の義務的経費削減は、極端な減少が見込めないため、継続的な人材育成を推進し、一層の効率的な行政運営に努めながら、住民サービスの維持・向上を目指すことが重要な課題となっております。

平成25年度の予算編成にあたりましては、第5次南伊豆町総合計画の基本理念及び町の将来像を具現化すべく、

- ①安心・元気・温かさがあふれるまちづくり
 - ②優美な自然を生かした観光と交流のまちづくり
 - ③地域・自然の恩恵を生かしたまちづくり
 - ④地域を担う人づくりと町の歴史・文化を継承するまちづくり
 - ⑤人、町、自然が共生する快適でぬくもりのあるまちづくり
- の5つの基本目標と、「自らが創り、守る南伊豆町の未来」の共通目標
以上、全6項目の重点目標を掲げて予算編成を行いました。

平成25年度の一般会計、11特別会計及び水道事業会計の予算総額は、前年度対比10.8%増の82億3,919万4,000円となりました。

※平成25年度一般会計予算グラフは6ページに掲載



(イメージ図) 道の駅「下賀茂温泉湯の花」に設置予定の電気自動車急速充電スタンド

行政報告（要旨）

1 岩崎産業株式会社との訴訟上の和解

ジャングルパーク跡地等にかかる損害賠償等請求事件について、東京高等裁判所から、和解条項(案)が示され、1月17日開催の南伊豆町議会臨時会において議決されました。

2月1日には、石廊崎コミュニティセンターにおいて地元の方々に、訴訟の経緯や和解条項(案)の内容について報告し、貴重な意見や要望をいただきました。

今後、必要な手続きを経て、土地売買成立後に、町民の皆様や有識者等の意見を伺いながら利用計画を検討してまいります。

2 防災対策

(1) 第4次地震被害想定の策定に向けて

2月13日に静岡県第4次地震被害想定策定会議の中間報告が行われ、発生頻度が比較的高く発生すれば大きな被害が予想されるレベル1では伊浜海岸で7m、発生頻度が極めて低いが発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスのレベル2では妻良富戸ノ浜で26mという津波高が示されました。

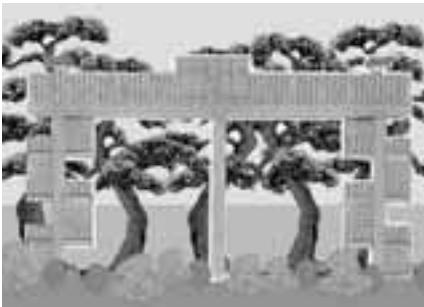
このため、地域防災計画の全面的な見直しに取り組むとともに、県、周辺市町及び関係機関と協議を進めてまいります。

(2) 湿地区津波避難タワー

湊地区津波避難タワー建設工事設計業務は3月5日に完了します。

タワー本体の構造及び形状については湊地区との協議に基づくもので、建設予定地は、所有者の湊区共有地管理会から無償で借り受けることになっており、平成25年

7月中旬の完成を目指してまいります。



(イメージ図) 湿地区に設置予定の津波避難タワー

(3) 消防団協力事業所表示制度

消防団に積極的に協力している町内の事業所等に消防団協力事業所表示証を交付しております。

昨年12月には3事業所に、1月には2事業所に表示証を交付し、町広報誌を通じて事業所名を公表いたしました。

認定を受けた事業所は、平成24年4月1日から平成26年3月31日までの間に終了する各事業年度の法人事業税及び平成25・26年度の個人事業税について、10万円を限度に控除を受けることができます。

3 経済対策

(1) 各種融資に対する利子補給

「中小企業事業資金融資制度」に係る利子補給は、本年度上期が小口資金131万円余、短期経営改善資金1万円余、下期が小口資金116万円余、短期経営改善資金2万円余の見込みです。

また、静岡県が新設した「中小企業災害対策貸付資金制度」に係る利子補給制度も、県事業に上乗せの利子補給を行っております。

「中小企業災害対策資金」に係る利子補給は上期が99万円余、下期が93万円余の見込みで、「経済変動対策資金」に係る利子補給は上期が94万円余、下期が87万円余

の見込みとなっております。

(2) 南伊豆プレミアム商品券等の使用実績中間報告

商工会では町の助成を受け、昨年11月5日から3月10日までプレミアム商品券5,000万円分を販売しました。利用実績は5,415万7,500円、94.19%の利用率となっております。内訳は、大型店舗での利用が51.4%、地元商店での利用が48.6%でした。

また、商工会が昨年から着手しているインターネットショッピングモールは、現在、民宿、製造・卸小売業等合計34店舗が出店するなど、販路拡大に向けた取組が行われているところです。

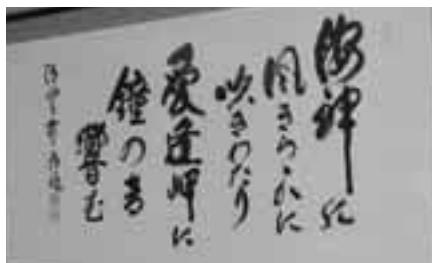
4 イベントの開催状況

(1) ジオパークビジターセンターの充実

南伊豆ジオパークビジターセンターは、奥石廊崎の新たな観光スポットとして多くの観光客に訪れていただいており、1月10日には、京都清水寺貫主の森清範氏の揮毫による川勝静岡県知事の詩の除幕式を執り行いました。

この詩は、昨年10月に愛逢岬を訪れた知事が奥石廊崎の景色に感嘆し詠まれたもので、同センターの新たな目玉となっております。

また、2月上旬にはトイレ改修工事も終了するなど引き続き施設整備も含め、ビジターセンターの充実に努めてまいります。



京都清水寺貫主・森清範氏の揮毫による川勝静岡県知事の詩

(2) 第20回青野川桜マラソン大会

「第20回青野川桜マラソン大会」を2月3日、青野川ふるさと公園をメイン会場として開催いたしました。今回は、20回の記念大会となりましたので、部門ごと入賞者を拡大するとともに、お楽しみ抽選会なども実施いたしました。

参加者は390人となり、関東方面や東海道沿線からも申込みがあり、青野川桜マラソンの人気が町外に着実に広まっています。

**(3) 第15回みなみの桜と菜の花まつり**

「第15回みなみの桜と菜の花まつり」が、2月5日から3月10日までの間、開催されております。

1月25日にJR東日本の東京・横浜の両支社を訪問し、電車内へのポスターの掲出、誘客宣伝への取組等の協力を依頼してきました。

新しい試みとして、1月1日から1か月間、台湾鉄道を利用した「桜まつりラッピング電車」を台北市内で運行し、広く台湾の皆様に誘客宣伝ができたものと考えております。

また、3月5日に台湾の旅行エージェントを招聘し、誘客宣伝を行うことしております。

(4) 第2回南伊豆・夜桜ナイトラン

2月16日、青野川河川敷道路において、第2回南伊豆・夜桜ナイトランが開催されました。

当日は、関東圏を中心に全国から集まった240人の選手が、ライ

トアップされた2.5km、5km、10kmコースを元気に駆け抜けました。

競技中は、伊勢海老の味噌汁コーナー、屋台、ピザバスの開設、町営温泉銀の湯会館の閉園時間延長など、町を挙げてのおもてなしをすることができました。

**(5) 杉並区との交流**

昨年9月の災害時相互援助に関する協定書の締結を契機に、3回ほど杉並区で海産物を中心とした物産展を開催し、大変好評を得ております。

杉並区のイベントとして、2月23日、24日の両日、杉並区民号が運行され、80人の区民の方々に当町を訪れていただき、みなみの桜と菜の花まつりや町内観光地巡りなど、一足早い南伊豆の春を満喫していただきました。

(6) 観光客等入込み状況

宿泊施設は対前年度比108.66%、観光施設は対前年度比128.47%、銀の湯会館・みなと湯の町営温泉施設は対前年度比115.43%となっております。

いずれも昨年度を上回り、特に町営温泉につきましては、本年度から指定管理者制度を導入し、イベントの開催や物品販売の充実等が図られたことが増加につながっているものと考えております。

5 自然エネルギー

吉祥町有地の民間事業者による

メガソーラー建設促進については、昨年12月に数社に対して企画書の提出依頼を行いましたが、発電規模や造成費用等の問題から辞退の申し出がありました。

その後も10数社から照会がきており、現在、企画書を提出するよう依頼しているところであります。

また、環境省が独立行政法人産業技術総合研究所に委託し、平成23年度から実施している「温泉共生型地熱貯留層管理システム実証研究」は、現地調査が1月中旬に終了し、3月末までに町に対して最終報告が行われることとなっております。

さらに新年度、道の駅「下賀茂温泉 湯の花」への太陽光発電システムを併設した電気自動車充電施設の整備のほか、認定こども園、小中学校等の町有施設に太陽光発電システムの導入を検討するなど、「住宅用太陽光発電システム設置補助金」とともに、町民の皆様への普及啓発に努めてまいります。

6 三浜小学校統合に係る地元説明会

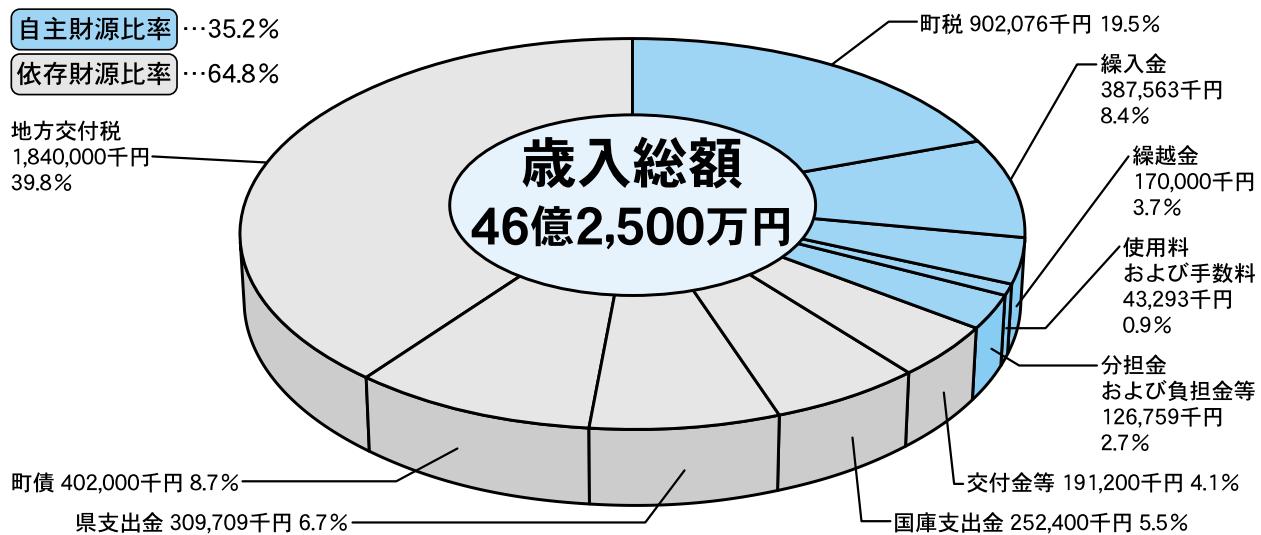
三浜小学校と南中小学校につきましては、平成26年4月1日からの統合に向けて準備を進めているところであり、2月16日に三浜小学校で保護者及び地元関係者を対象とした地元説明会を開催いたしました。

出席者からは、バスの時刻変更等の要望や児童の負担増加に対する不安、廃校後の跡地利用に関する質問等がありました。

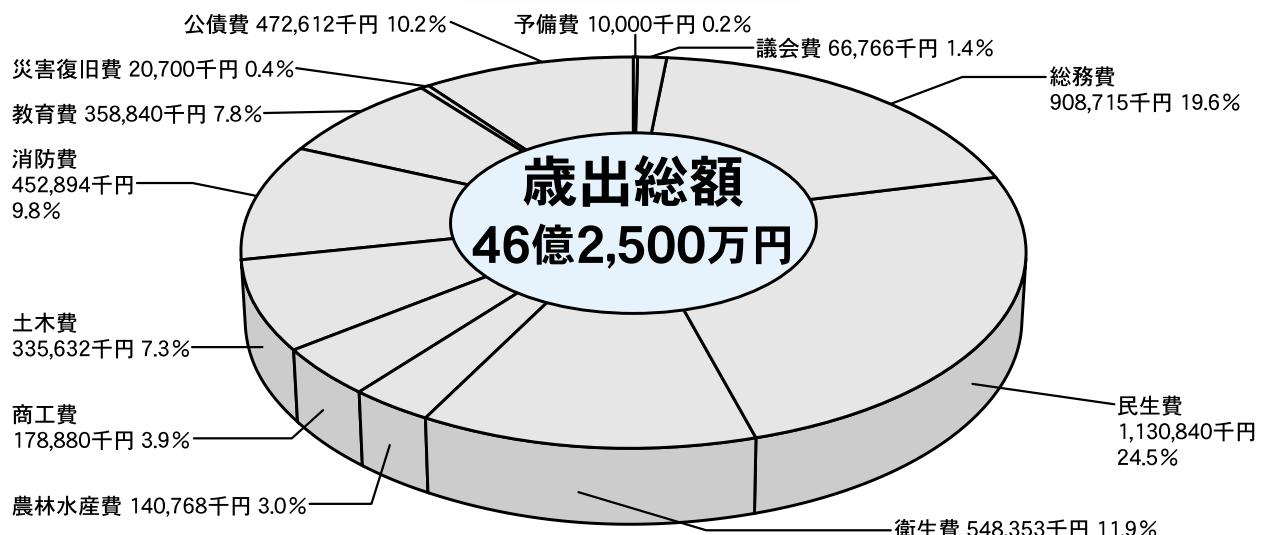
これらの点につきましては、平成25年度に設置予定の統合準備会の中で検討するとともに、引き続き説明会等を積極的に行うなど、統合の準備を進めてまいります。

平成25年度 一般会計予算

歳 入



歳 出



渥美幸博副町長が退任



3月末日をもちまして、副町長を退任いたしました。
2年間という短い期間でありますましたが、鈴木町長の補佐役として、その職務を遂行させていただきました。

微力な私が、何とか務めることができましたのも、町民の皆様から、いろいろご指導、ご鞭撻をいただいたお蔭であり、心から感謝を申し上げます。

県に戻りましても、南伊豆町の発展のために、一生懸命、努力してまいりますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

2年間、誠にありがとうございました。

経済再生、活性化を目指して



協定を交わす町長と町内4金融機関等代表

3月19日、町内4金融機関等と町との間で、効果的な情報交換を通して町内の経済再生と発展、地域の活性化を目的に、南伊豆町活性化に関するパートナーシップ協定調印式が行われました。

妻良公会堂落成



高台へ移転した妻良公会堂

3月10日、妻良区がコミュニティ施設整備事業で建設した公会堂の落成式が行われました。老朽化と津波対策のため海拔26㍍の高台へ移り、災害時の避難場所として期待されます。

詩を読む人は詩人

3月8日、「石垣りん文学記念室」記念授業として、出版社童話屋編集長の田中和雄さんによる『詩のとびらをひらく詩の授業』が三浜小学校と南上小学校で行われました。

田中さんは、「詩を書かなくても、詩を読む人は詩人だ」と児童に語りかけ、ノートに詩を書き写せたり全員で朗読したりして、

「自分が自分であることの大切さ」を作品に込めた「存在の詩」について解説しました。

軽トラ市 in 南伊豆



軽トラック22台が出店し賑わった軽トラ市

3月3日、商工会青年部主催の第1回軽トラ市in南伊豆が役場駐車場で開催されました。弁当、焼き鳥、干物など町内外から軽トラック22台が出店し、賑わいました。

陸上自衛隊入隊を激励



3月12日、陸上自衛隊に入隊する佐野拳乙さん（岩殿）の自衛隊入隊激励会が、役場湯けむりホールで行われました。佐野さんは、自衛官候補生として御殿場市の滝ヶ原駐屯地へ入隊します。



今月のおすすめ



「二・二六事件決起将校最後の手記」
 山本又著／文藝春秋
 安藤輝三から事件のことを書き残してくれと頼まれた山本又。その獄中手記を初公開。事件直前に決起趣意書から突如削られた一文とは。



「糸車」
 宇江佐真理著／集英社
 蝦夷松前藩家老の夫を亡くし、行商をしながら深川で一人暮らしをするお絹。定廻り同心の勝田をはじめ町の人々と親交を深めていく。



「新島八重 ハンサムな女傑の生涯」
 同志社同窓会編／淡交社
 夫・襄をして「ハンサム」と言わしめた新島八重・「女丈夫」とも「悪妻」とも称されるその個性あふれる生涯を7つのテーマでたどる。



「望郷」
 湊かなえ著／文藝春秋
 島に生まれ育った人々の、島を愛し島を憎む複雑な心模様が生み出されさまざまな事件。「海の星」ほか心の奥底を揺さぶる連作短篇集。



「面白くて眠れなくなる人体」
 坂井建雄著／P H P 研究所
 我慢したオナラはどうなる？血管は日本列島の2倍も長い！？鼻の孔はどうして二つあるの？知れば知るほどミステリアスな人体のはなし。



「あと少し、もう少し」
 濑尾まいこ著／新潮社
 褙をつないで、ゴールまであと少し。寄せ集めメンバーと頼りない先生の元で最後の駅伝にのぞむ中学生たちの熱い夏を描く。



「覚悟」
 栗山英樹著／ベストセラーズ
 ダルビッシュ有の穴を埋めるために考えたこと。三原脩、野村克也、藤田元司…名将にあやかる。ルーキー監督歓喜と苦悩の備忘録。



「世界から猫が消えたなら」
 川村元氣著／マガジンハウス
 僕の葬式。枕元に集まる人はどんな人たちだろうか。友達、恋人、親戚、同僚たち。僕の死を心から悲しんでくれる人は何人いるだろうか。



「江分利満家の崩壊」
 山口正介著／新潮社
 父・山口瞳が書けなかつた秘密。母・治子を炉心とする山口家最大のミステリー！父ゆづりの暴露遺伝子が炸裂する、「血族」の場外乱闘篇。



「ママが生きた証」
 小松武幸著／講談社
 妻が妊娠5ヶ月で余命1年の乳がんを宣告された！自分の命か新しい命か迫られる夫婦。日本初の治療例に耐えての出産とその後の日々。

－新着図書案内－

介護チームの対話タブー集 介護の言葉かけ研究会編

ハーバード流宴会術 児玉教仁

ミツカン社員のお酢定食 ミツカン監修

聰明な女は料理がうまい 桐島洋子

絵画に魅せられて 上原昭二

やさしい草花のはがき絵 増淵澄子

従軍歌謡慰問団 馬場マコト

父水上勉 窪島誠一郎

うたの歳時記 河野裕子

いちばん長い夜に 乃南アサ

陽子の一日 南木佳士

夢をかなえるゾウ2 水野敬也

歓喜の仔(上下) 天童荒太

老いたレッスン 渡辺淳一

わが友の旅立ちの日に 安野光雅

雑誌も貸し出します！

図書館では、以下の月刊・季刊誌を購入し貸し出しています。

文藝春秋／オール読物／和楽／日経PC21／サライ／ビーパル／婦人公論／現代農業／家庭画報／天然生活／婦人之友／うかたま／暮らしの手帖／オレンジページ／趣味の園芸／ウィズ／エッセイ／すてきにハンドメイド／きょうの料理ビギナーズ

雑誌の貸し出し期間は一般書と異なります。最新号からその前々号までは1週間。その他は3週間です。どうぞ、ご利用ください。





健康レシピ

野菜ハンバーグ



ここがポイント！

- ・野菜たっぷりのヘルシーなハンバーグです。
- ・水を少し加え蒸し焼きにすると上手に焼けます。

南豆味会 町田よし子

▷ 材料／2人分 ◇

鶏ひき肉……………70 g
豆腐……………50 g
ごぼう……………40 g
たまねぎ ……小1/3個
しいたけ……………小1枚
乾燥ひじき……………2 g
じゃがいも ……中1/2個

(1人分エネルギー172kcal、たんぱく質11g、脂質8.7g、塩分1.2g)

〈調味料〉

A [しょうゆ……大さじ1
みりん……小さじ1
酒 ……小さじ1/2
片栗粉 ……大さじ1/2
ごま油 ……小さじ1/2
サラダ油 ……大さじ1/2

▷ 作り方 ◇

- ①ひじきは水につけて戻す。豆腐は水気をよく切る。
- ②玉ねぎはみじん切りにし、ごま油で炒めておく。
- ③ごぼうは細いささがきにし、水にさらした後、レンジで20秒ほど加熱する。
- ④しいたけはみじん切りにする。じゃがいもはすりあろし水気を切る。
- ⑤ボウルにひき肉を入れ、ねばりが出るまで混ぜ合わせ、①～④と調味料Aを混ぜ合わせる。
- ⑦熱したフライパンに油を広げ、生地を2つに分けて成形し、中火で焼く。

南伊豆町地域おこし協力隊

地域おこし奮闘記



花と感謝状

南上小学校にて「感謝の会」

読み聞かせをしている南上小学校にて感謝の会が、先日開かれました。大して役に立っていない私ですが、せっかくお声かけいただいたので、図々しくお邪魔してきました。全校生と先生方に出来迎えていただき、列席には駐在さんや交通指導員さん、給食調理師さんなどなど。つくづく場違いな感が否めません。

読むのはヘタクソ、滑舌は悪いし、本のセレクトもかなり変。読み聞かせには創造力や言語能力を高める効果があると言われていますが、私のヘタな読み聞かせが子供たちに与えた効果と

いえば、15分間我慢して聞くという忍耐力くらいのものでしょうか。そんな私にも、子供たちから御礼の言葉とともに、素敵な花と感謝状が贈されました。

帰って感謝状を開いてみると子供たちからのメッセージがずらり。やっぱり歳ですかねえ、昨年、感謝状や暑中お見舞いをもらった時も目頭が熱くなってしましましたが、今回もかなり涙腺を刺激されました。このような子供たちに、そしてこの子たちを育んだ地域に感謝しつつ、今年度も頑張りますのでよろしくお願いします。(隊員 山之内)



いただいた鉢植えの花は、家に帰って庭に地植えしました。

国民健康保険税の納期が変更されます

南伊豆町国民健康保険税条例の改正により、平成25年度から国民健康保険税の納期が下表のとおり変更になります。

この変更では、普通徴収（納付書、口座振替での納付）により納付されている方の納付月が変更になります。今までの6期から8期に納期数を増やすことにより、各納期ごとに納めていただく金額を少なくし納めやすくするものです。

また、5月に行っていた仮算定（前年の年税額を納期数で割った暫定賦課）を廃止し、本算定による確定賦課のみとなります。これに伴い、納税通知書の発送が7月（年1回）になります。

※特別徴収（年金からの天引き）の方はこれまでと同じ年6回です。

変更前（各月の末日が納期）

| 1期 | 2期 | 3期 | 4期 | 5期 | 6期 |
|----|----|----|-----|----|----|
| 5月 | 7月 | 9月 | 11月 | 1月 | 3月 |

変更後（各月の末日が納期） ↓

| 1期 | 2期 | 3期 | 4期 | 5期 | 6期 | 7期 | 8期 |
|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|
| 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |

※各月末日が土・日の場合は翌月となる場合があります。

（12月は末日ではなく25日です）

問合せ 町民課 税務係 ☎ 62-6222

知っていますか？ 不妊治療費助成

町では、特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）を受けたご夫婦の経済的負担を軽減するため、その治療に要する医療費の一部を助成しています。

対象治療 体外受精・顕微授精

対象者 体外受精・顕微授精以外の治療方法では妊娠の見込みがないか、または極めて少ないと医師に診断された戸籍上の夫婦

助成金額 1回の治療につき最大10万円

助成回数 1年度あたり2回、通算5年間を限度

※詳しくは健康福祉課まで、お問い合わせください。

問合せ 健康福祉課 健康係

☎ 62-6233



下田メディカルセンターへ通院する高齢者の方へ

平成25年度も引き続き、下田メディカルセンター（SMC）への通院に要するバス料金の一部を助成します。

助成対象者

- ①申請日において満65歳以上の町民の方（生活保護世帯を除く）
- ②上記①の方が通院する際に付き添う方（1名に限る）

助成額

1回の通院に要したバス料金の半額を助成します。なお、1回の通院のバス料金が2,000円を超えた場合は、バス料金から1,000円を引いた金額を助成します。

申請手続き

印鑑と保険証を持参し、健康福祉課へお越しください。

審査の上、『平成25年度 南伊豆町高齢者通院バス料金助成証明券』を発行します。

※平成24年度に申請された方も、利用する場合は再度申請してください。

使用方法

バスを降りる時とSMC（会計終了後、受付窓口）で、確認の印を受けてください。

請求・支払い

高齢者通院バス料金請求書に助成証明券を添えて請求してください。



問合せ 健康福祉課 福祉介護保険係 ☎ 62-6233

きらりと光るまちづくり事業支援補助金 交付事業の公募について

町では、「協働のまちづくり」の一環として、平成25年度に地域振興、産業の活性化、社会福祉の向上等を目的とした公益的な事業を主催する住民団体に対して補助金（事業費の1/2以内、上限50万円）を交付します。

対象となる団体 次のすべてに該当する団体

- ①団体の代表者が本町の住民であること。
- ②団体構成員の3分の2以上の方が、本町に居住していること。
- ③団体の活動拠点が町内にあり、かつ、町内において継続的に活動を行っていること。
- ④営利団体でないこと。
- ⑤特定の政党もしくは政治団体または宗教等を支持する団体でないこと。

応募方法 補助金交付要望書（町のホームページまたは総務課で配布）に必要書類を添付して総務課に提出してください。

提出期限 5月10日(金) **問合せ** 総務課 ☎ 62-6211

*本事業に関する説明会を以下のとおり開催します。

日時 4月26日(金) 10:00～ **場所** 役場3階 会議室



姉妹都市だより 長野県塩尻市 「塩尻ワインの日」を 制定しました

ワインが特産の塩尻市では、4月から、毎月20日を「塩尻ワインの日」と制定します。フランス語の「20」と「ワイン」の発音が同じ「ヴァン」であることから、日本ソムリエ協会が定めたワインの日と合わせています。

4月20日(土)には、塩尻ワインの日制定を記念して「塩尻ワインフォーラム」をレザンホールで開催します。

また、今後、市内の飲食店で気

軽にワインを飲める仕組みを作っていますので、ぜひ塩尻ワインを味わいにお越しください。

問 塩尻市ブランド推進室

☎ 0263-52-0280



4月は、固定資産税、国民年金保険料の納付月です。

納期限内に忘れずに納めましょう。

税金・料金の納付は便利な口座振替で。お申込みは、各金融機関窓口まで。

戸籍の窓

赤ちゃん誕生あめでとう

| 地区 | 赤ちゃんの名前 | 誕生日 | 父・母 |
|----|---------|------|--------|
| 湊 | 新宮 瑞子 | 1.21 | 幸文・小百合 |
| 入間 | 萩原 理玖 | 1.31 | 克利・祐子 |

お悔やみ申し上げます

| 地区 | 氏名 | 年齢 | 月日 |
|-----|-------|----|------|
| 上小野 | 小島きく | 84 | 1.27 |
| 青市 | 鈴木すま | 89 | 2.1 |
| 入間 | 萩原正一 | 62 | 2.2 |
| 下賀茂 | 鈴木とも子 | 88 | 2.12 |
| 石廊崎 | 鈴木さち江 | 84 | 2.12 |
| 青市 | 石井はる江 | 97 | 2.13 |
| 天神原 | 風巻福治 | 93 | 2.16 |
| 市之瀬 | 井上好和 | 83 | 2.17 |
| 中木 | 山本満 | 81 | 2.25 |
| 吉祥 | 鈴木喜久代 | 75 | 2.25 |
| 湊 | 土屋けい | 83 | 2.25 |

平成25年2月1日から2月28日までに届出のあったもの（敬称略）

※このコーナーに掲載を望まない方は、戸籍届出の時にお申し出ください。

人の動き

(3月1日現在)

世帯数 3,987世帯

人口 9,192人 (-5)

男 4,366人 女 4,826人

----- (2月中) -----

転入 24 転出 15

出生 2 死亡 16

※住民基本台帳法の改正（平成24年7月9日）により、外国人も含んでいます。

「広報みなみいづ」は下記施設で入手できます。また、町のホームページからもご覧いただけます。

【広報みなみいづ設置施設】

役場、図書館、銀の湯会館、観光協会、武道館、郵便局（下賀茂・竹麻・南上・子浦）、マックスバリュ下賀茂店、エネオス伊浜SS（一町田）



まちの人

椿の花の強い生命力にひかれ

井上公三さん（一町田）

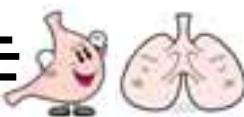
慶大美学美術史学科卒業後、フランスに渡り、
パリ、ニューヨーク、東京を中心に絵画を制作。
椿に魅せられ南伊豆に拠点をおく。

「ライフワークとしての絵を描きたい」と思い、
その仕事場として伊豆を選びました。伊豆は温暖な
気候で、人間に優しい温度です。24年住んでみて、
やっぱり伊豆は良いところだと実感しています。

伊豆に来て椿に出会い、その強い生命力にひかれ、
椿を通して自分の考えている世界を表現できると直
感し、椿の花の絵を描き始めました。

最後に、若い人たちへメッセージを送ります。「自
分がやりたいことをやるべきだ」

健康一口メモ



胃がん・肺がん検診を受けましょう!!

胃がんは日本人に最も多いがんで、塩分の取り過ぎなどの食生活が関係しています。しかし、胃がんは治りやすいがんでもあり、早期に発見するほど完治しやすくなります。

肺がんは死亡率1位のがんで、タバコが最大の原因です。有効な治療法が少なく転移しやすいため、早期に発見して対処することが重要です。

どちらも自覚症状が少ないのが落とし穴。辛くなつてからの受診では、手遅れになってしまふことも少なくありません。

町では4月に、胃がん検診(35歳以上)、肺がん検診(40歳以上)を実施します(詳細は広報3月号に掲載)。

年に一度は受診して早期発見に努めましょう!

問合せ 健康福祉課 ☎ 62-6233

広報みなみいづ 4月号

発行日／平成25年4月1日

発行／南伊豆町 編集／企画調整課 印刷／(有)サン印刷

〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂315-1

TEL 0558-62-6288 FAX 0558-62-1119

ホームページ

<http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/>

編集後記

みなみの桜と菜の花まつりの新しいイベントとし
て、3月3日から7日まで行われた「夜桜☆流れ星」。
桜、菜の花、いのり星が織りなす光の共演はとても
幻想的で、多くの人を魅了しました。 ◎

広報みなみいづは、再生紙を利用しています。

平成 25 年南伊豆町議会 3 月定例会の開会にあたり、次の 6 項目に
ついて行政報告を申し上げます。

1 岩崎産業株式会社との訴状上の和解について

平成 19 年 3 月から岩崎産業株式会社と町との間で争ってまいり
ましたジャングルパーク跡地等にかかる損害賠償等請求事件について、
平成 25 年 1 月 11 日に、東京高等裁判所から、土地の売買、測量、
道路整備等の取扱いを定めた和解条項（案）が示され、同年 1 月 17 日
開催の南伊豆町議会臨時会において、この和解条項（案）が議決
されました。

これにより、これまでの長きにわたる紛争が全面的に解決すると
ともに、自然環境の保全、観光資源の確保、道路の確保が図られ、
伊豆半島の観光拠点である石廊崎の再生に向けた取組が可能になり
ます。

また、2 月 1 日には、石廊崎コミュニティセンターにおいて
「石廊崎ジャングルパーク訴訟に関する報告会」を開催し、出席
された地元の方々に対して、訴訟の経緯や和解条項（案）の内容に
について報告いたしました。

出席者からは、訴訟に関する様々な質疑のほか、当該地区の活用
方法や課題など、貴重な意見や要望をいただきました。

町では、今後、必要な手続きを経て、土地の売買が成立した後に、

町民の皆様や有識者等の意見などを伺いながら利用計画を検討してまいります。

2 防災対策について

(1) 第4次地震被害想定の策定に向けて

静岡県第4次地震被害想定策定会議では、本年6月を目途に第4次地震被害想定の取りまとめを進めておりますが、2月13日に、同策定会議において中間報告がなされました。

この報告によりますと、本町の場合、発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害が予想されるレベル1では、伊浜海岸で7mという津波高が示されたほか、発生頻度が極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスのレベル2では、震度6強、妻良富戸ノ浜で26mという津波高が示されました。

このため、本町では、第4次地震被害想定の確定を待って、地域防災計画の全面的な見直しに取り組むとともに、平成26年度に、孤立が予想される伊豆半島南部を中心として行われる広域的かつ実践的な総合防災訓練に向けて、県、周辺市町及び関係機関と協議を進めてまいります。

(2) 湿地区津波避難タワー

昨年12月3日から着手しております湊地区津波避難タワー

建設工事設計業務は、ボーリング調査を経て、3月5日をもって業務が完了いたします。

タワー本体の構造及び形状については、湊地区との協議に基づくもので、建設予定地は、所有者の湊区共有地管理会から無償で借り受けることになっております。

なお、3月中旬を目途に、タワー建設事業の地元説明会を開催し、平成25年7月中旬の完成を目指してまいります。

(3) 消防団協力事業所表示制度

町では地域の消防防災力の強化を目的に、消防団に積極的に協力している町内の事業所等に消防団協力事業所表示証を交付することとしております。

このような中で、昨年12月には3事業所に、また、1月には2事業所に表示証を交付し、町広報誌を通じて事業所名を公表いたしました。

これら認定を受けた事業所は、平成24年4月1日から平成26年3月31日までの間に終了する各事業年度の法人事業税及び平成24年、平成25年の所得に対して課税される平成25年度、平成26年度の個人事業税について、10万円を限度に控除を受けることができます。

今後も、消防活動を支援する事業所等の推奨に努めるとともに、

地域消防防災力の強化・推進を図ってまいります。

3 経済対策について

(1) 各種融資に対する利子補給

長引く景気低迷に対する地域経済対策として、「中小企業事業資金融資制度」に係る小口資金利子補給、短期経営改善資金利子補給を実施しているところです。

本年度上期は、小口資金が 64 件の借入れに対して 131 万円余の利子補給、短期経営改善資金が 1 件の借入れに対して 1 万円余の利子補給となっており、下期は、小口資金が 64 件の借入れに対して 116 万円余の利子補給、短期経営改善資金が 2 件の借入れに対して 2 万円余の利子補給を行う見込みです。

また、東日本大震災に係る緊急経済対策として、静岡県が平成 23 年度に限り新設した「中小企業災害対策貸付資金制度」に係る利子補給制度につきましても、県事業に上乗せの利子補給を行っているところです。

「中小企業災害対策資金」に係る利子補給は、12 件、1 億 3,200 万円の借入れに対して、上期が 99 万円余、下期が 93 万円余の見込みで、また、「経済変動対策資金」に係る利子補給は、12 件、1 億 6,540 万円の借入れに対して、上期が 94 万円余、下期が 87 万円余の見込みとなっております。

(2) 南伊豆プレミアム商品券等の使用実績中間報告

商工会が、町の助成を受け、昨年 11 月 5 日から 3 月 10 日まで、町内参画事業所 144 店舗で利用できる 15% の割増し付プレミアム商品券 5,000 万円分を販売いたしましたが、2 月 20 日現在までの利用実績は、5,415 万 7,500 円で、94.19% の利用率となっております。

内訳は、大型店舗での利用が 51.4%、地元商店での利用が 48.6% でした。事業完了実績の数値ではありませんが、地域購買の促進が図られ、町内商業の活性化に寄与している状況が見て取れます。

また、商工会が新規事業として、昨年 5 月から着手しておりますインターネットショッピングモールにつきましては、現在、民宿 8 店舗、製造・卸小売業 11 店舗、サービス業 6 店舗、施設農業等 4 店舗、建設・建築業等 5 店舗、合計 34 店舗が出店するなど、販路拡大に向けた取組が行われているところであります。

4 イベントの開催状況等について

(1) ジオパークビジターセンターの充実

昨年 7 月 14 日開設の「あいあい岬」売店を活用した伊豆半島で初めてとなる南伊豆ジオパークビジターセンターにつきましては、ジオパークの普及啓発の拠点としてだけでなく、奥石廊崎の新たな

観光スポットとして、多くの観光客に訪れていただいております。

また、1月10日には、京都清水寺貫主の森清範氏の揮毫による川勝静岡県知事の詩の除幕式を執り行いました。この詩は、昨年10月に移動知事室で愛逢岬を訪れた川勝知事が、奥石廊崎の景色に感嘆し詠まれたもので、ビジターセンターの新たな目玉となっております。

さらに、敷地内のトイレにつきまして、2月上旬に改修工事が終了したところであり、今後とも、引き続き施設整備も含め、ビジターセンターの充実に努めてまいります。

(2) 第20回青野川桜マラソン大会

「第20回青野川桜マラソン大会」を、2月3日に晴天の下、青野川ふるさと公園をメイン会場として開催いたしました。

今回は、20回という節目の記念大会となりましたので、各コース部門ごと入賞者を拡大するとともに、お楽しみ抽選会なども実施いたしました。

最終的な参加者は、390人となりましたが、最近の傾向としては、健康志向と観光を兼ね、関東方面や東海道沿線からも申込みがあり、青野川桜マラソンの人気が町外に着実に広まっております。

特に、本大会は家族と走るファミリーコースが人気の一つで、楽しそうに親子で一緒に走る微笑ましい光景が随所で見受けられ

ました。

閉会式では、各コース上位入賞者 58 人の表彰を行い、参加者全員に記録証を交付いたしました。

今後とも、誰もが楽しく参加できる生涯スポーツの一環として、「青野川桜マラソン大会」を育ててまいりたいと考えております。

(3) 第 15 回みなみの桜と菜の花まつり

「第 15 回みなみの桜と菜の花まつり」が、2 月 5 日から 3 月 10 日までの間、道の駅「下賀茂温泉 湯の花」をメイン会場に開催されております。

また、まつり開催に先立ち、1 月 25 日に観光協会長をはじめとする観光関係者で、JR 東日本の東京・横浜の両支社を訪問し、電車内へのポスターの掲出、誘客宣伝への取組等の協力を依頼してきたところであります。

さらに、今回新しい試みとして、静岡県の協力の下、1 月 1 日から 31 日までの 1 か月間、台湾鉄道を利用した「桜まつりラッピング電車」を台北市内で運行いたしました。この運行により、広く台湾の皆様にも「みなみの桜と菜の花まつり」の誘客宣伝ができたものと考えております。

こうした中、インバウンド事業の一環として、3 月 5 日に台湾の旅行エージェントを招聘し、「みなみの桜と菜の花まつり」を

見学していただくとともに、当町の魅力ある旅行商品を提案し、誘客宣伝を行うこととしております。

(4) 第2回南伊豆・夜桜ナイトラン

2月16日、町営温泉銀の湯会館をスタート・ゴールに、青野川河川敷道路において、第2回南伊豆・夜桜ナイトランが開催されました。

当日は、関東圏を中心に、全国から集まった240人の選手が、50基の投光器にライトアップされた1周2.5kmの特設コース2周の5kmコース、4周の10kmコースを元気に駆け抜けました。

競技中は、観光協会による伊勢海老の味噌汁コーナーや指定管理者による屋台、民間事業者によるピザバスなども開設され、遠方からの参加選手に対して、町を挙げてのおもてなしをすることができました。

また、町営温泉銀の湯会館も、閉館時間を午後10時30分まで延長し、走り終わった選手を温かく迎え入れる体制を整えての大会開催となりました。

(5) 杉並区との交流

昨年9月の災害時相互援助に関する協定書の締結を契機に、杉並区との交流が始まり、既に3回ほど杉並区で物産展を開催

いたしました。

群馬県東吾妻町・福島県南相馬市といった山間地との交流が主である杉並区としましても、海産物を中心とした当町の物産展は、新鮮で魅力あるものとして大変好評を得ております。

このような中で、協定書締結初年度の杉並区のイベントとして、2月23日、24日の両日、杉並区民号が運行され、80人の区民の方々に当町を訪れていただきました。民宿に分宿し、みなみの桜と菜の花まつりや、町内観光地を巡り、一足早い南伊豆の春を満喫していただきました。

今後とも、このような交流を進め、杉並区との友好の輪を広げてまいりたいと考えております。

(6) 観光客等入込み状況

本年度4月から1月までの観光客等の入込み状況がまとまりましたので、報告いたします。

分野別に見てみると、宿泊施設は183,007人で、対前年度比108.66%、観光施設は111,906人で、対前年度比128.47%、銀の湯会館・みなと湯の町営温泉施設は90,262人で、対前年度比115.43%となっております。

いずれも、昨年度を上回り、特に町営温泉につきましては、本年度から指定管理者制度を導入し、イベントの開催や物品販売の

充実等が図られたことが、利用客の増加につながっているものと
考えております。

観光施設等の入込状況

| (単位:人・%) | | | | |
|---------------|---------------|------------|------------|--------|
| 区分 | | 平成24年4月～1月 | 平成23年4月～1月 | 前年度比 |
| 宿泊施設 | 民宿宿泊客 | 49,584 | 47,992 | 103.32 |
| | 旅館・ホテル等宿泊客 | 133,423 | 120,425 | 110.79 |
| | 小計 | 183,007 | 168,417 | 108.66 |
| 観光施設 | 下賀茂熱帯植物園 | 17,841 | 14,327 | 124.53 |
| | 波勝崎苑 | 24,854 | 26,338 | 94.37 |
| | 石廊崎遊覧船 | 22,464 | 21,754 | 103.26 |
| | 一条竹の子村 | 1,689 | 1,068 | 158.15 |
| | 天神原植物園 | 2,395 | 3,734 | 64.14 |
| | 伊豆下田CC | 19,231 | 19,884 | 96.72 |
| | ジオパークビジターセンター | 23,432 | - | - |
| | 小計 | 111,906 | 87,105 | 128.47 |
| 温泉施設 | 銀の湯会館 | 64,841 | 54,097 | 119.86 |
| | みなと湯 | 25,421 | 24,082 | 105.56 |
| | 小計 | 90,262 | 78,179 | 115.46 |
| 合計 | | 385,175 | 333,701 | 115.43 |
| (資料:観光交流客数調査) | | | | |

5 自然エネルギーについて

町では、自然エネルギーへの取組の一つといたしまして、吉祥
町有地について、静岡県のホームページを通じた民間事業者による
メガソーラー建設促進のための適地情報を提供しており、昨年
11月末までに10数社から照会がありました。

これらの事業者の中で、実施の意向を有していた数社に対して、昨年12月20日を期限に計画概要等を示した企画提案書の提出依頼を行いましたが、現状では発電規模が小さく、造成費用等を検討すると事業化が困難であることなどを理由に、辞退の申し出がありました。その後も、10数社から照会がきており、現在、事業実施の意向がある場合には企画提案書を提出するよう依頼しているところであります。

また、環境省が独立行政法人産業技術総合研究所に委託し、平成23年度から実施している「温泉共生型地熱貯留層管理システム実証研究」につきましては、現地調査が1月中旬にすべて終了し、報告書として取りまとめられ、3月末までに町に対して最終報告が行われることとなっております。

この調査は、下賀茂温泉における地下の地質分布や温度分布等を調査し、温泉湧出メカニズムや地熱資源の広がり等を解明することを目的として進められたものであり、この結果が将来に亘っての温泉の利活用において、貴重な資料になるものと期待しております。

さらに、町では、新年度、道の駅「下賀茂温泉 湯の花」への太陽光発電システムを併設した電気自動車充電施設の整備のほか、認定こども園、小中学校等の町有施設に太陽光発電システムの導入を検討するなど、昨年度創設の「住宅用太陽光発電システム設置補助金」とともに、町民の皆様への普及啓発に努めてまいります。

6 三浜小学校統合に係る地元説明会について

三浜小学校と南中小学校につきましては、昨年 11 月策定の「三浜小学校と南中小学校の統合に関する基本方針」に基づき、平成 26 年 4 月 1 日からの統合に向けて準備を進めているところであり、2 月 16 日に、三浜小学校で保護者及び地元関係者を対象とした両校の統合に関する第 1 回目の地元説明会を開催いたしました。

出席者からは、登下校に利用するバスの時刻変更等の要望や通学時間が長くなることに関する児童の負担増加に対する不安、廃校後の跡地利用に関する質問等がありました。

これらの点につきましては、平成 25 年度に設置予定の両校保護者及び地域代表者を含めた統合準備会の中で検討するとともに、引き続き説明会等を積極的に行うなど、児童の生活・学習環境のさらなる充実を目指し、統合の準備を進めてまいります。

以上で、平成 25 年 3 月定例会の行政報告を終わります。